



## ➡ 5月13日(月) 「アフリカの最新状況 ～食料事情の観点から～」

昨年度に引き続き、VSOC 代表取締役社長である中垣氏より、世界の食料問題に関するご講義をいただいた。今年で5回目を迎える。アフリカの最新状況について言及をしつつも、食料問題について多角的にお話をいただき、ご用意していただいた資料も多岐に渡った。前半は世界全体の食料問題の現状について、根本的な理解を深めることができた。ひとことで食料問題と言っても、それには飢餓、食料廃棄、人口、農業などさまざまな要因が絡み合っており、その複雑さを実感した。例えば食料廃棄量を減らそうとしても、文化的嗜好により、ある特定の食物が消費されずに廃棄された歴史や現状がある。また、食料生産量を上げるために農地の面積をふやそうとしても、地形や気候が障壁となることもある。干ばつや戦争による食料不足もあり、単純に「食料問題」という枠組みだけでは解決しえない。また、人口の増加に関して宗教的および経済的事情から産児制限を行えない現状があり、先進国と発展途上国の格差の深刻さについても認識を新たにした。生徒たちはグローバル 10 の応募課題を通して、食料問題に関する課題を選び、既に1度提言書を作成している。しかし、今回の講義を聞いて、より多面的・包括的なリサーチの必要性を改めて感じたはずである。

講義の後半、特に印象的だったのは、中垣氏が写真を交えながら、実体験を多く語ってくださったことである。世界中の飢餓や貧困、食料廃棄の深刻さ、農業促進の難しさ、また食文化の違いや変化など、さまざまな状況に思いを巡らせても、実際にすべての国々を訪れ、自分の目で確かめ、その状況を体感することは難しい。世界を飛び回って実際に経験された中垣氏の言葉は重みがある。「問題解決には人々の意識改革と社会の仕組みの構築が不可欠だが、難しいのはそれを持続させること。ちょっと努力を怠ると止まってしまう。」というお言葉も胸に響いた。より実現性の高い提言を目指すうえで、心に留めておきたい言葉である。中垣氏のお話を通して、より臨場感をもって世界の現状を学ぶことができ、普段インターネットや書物による資料によって情報を集める機会が圧倒的に多い生徒たちにとって、「実際は、本当はどうなのか」を知る非常に貴重な機会となったことは間違いない。

質疑応答では、実際の提言を見据えた具体的な質問が多くあった。ハイブリッド米やアフリカにおける灌漑の有用性についての質問がでたが、中垣氏はひとつひとつ丁寧に回答してくださった。その応答から、生物学的知識、政治学的知識など、幅広い分野に精通することが求められると感じた。また、アフリカにおける現金収入のメリットについては、刻々と変化する状況をお話いただき、課題に対してタイムリーに向き合う姿勢を意識させられた。また、中垣氏からは Coalition for African Rice Development (CARD) や NERICA など、新たな情報資源も紹介していただき、生徒にとっては有意義な「宿題」ができた。講義全体を通して、実際の提言に向けて道筋を見出すための大きな前進となった。

## ➡ 5月15日(水) 「世界の農業の課題」

本校の地理を担当する新堀先生から、世界および日本の農業を取り巻く現状について、ご講義いただいた。

食料問題に関する提言テーマを絞る前に、まず、現状に関する知識を広げておくべきであるという観点から、例年よりも約1か月早い開催となった。

経済格差問題、外交問題、地球環境問題など、国内外の情勢が不安定化する中、人々が生きていくうえで最も大切なものは「食」であり、農業に関する課題に取り組むことは急務である。

はじめに、世界の食料事情の概要についてご説明いただいた。FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations 国連食糧農業機関) によると、世界の穀物生産は、世界全体で見ると需要が供給を下回っており、世界人口を養えるだけの食料を生産している。しかし、食料は平等には分配されず、飽食地域と飢餓地域とが併存している。今もなお世界人口の8人に1人の約9億人が飢餓に苦しんでいる。飢餓人口比率が高い地域はサハラ以南のアフリカに集中しているが、飢餓人口そのものはインドなどの南アジアに多く、両地域合わせて世界の飢餓人口の約90%を占めている。

世界の富の配分は極めて不公平で、最も豊かな1/5の層が富の85%を所有し、最も貧しい1/5の

層はわずか1%しか所有していない。『貿易ゲーム』の資料を通して、日本を含めた先進諸国と発展途上国間の貿易についても考えた。「例えばイギリスで、100ペンスで売られているジャマイカ産のバナナは、その代金のうち88.5ペンスがイギリスに蓄積される。(うち26ペンスが箱詰め業者・港湾人夫・運送業者・輸出業者、11.5ペンスが海運業者・保険業者、19ペンスが熟成業者、32ペンスが小売商に配分されている)バナナを生産したジャマイカには11.5ペンスしか渡らず、しかもその大部分は農園主が受け取り、小作労働者にはわずかの額しか渡らない。その現実に衝撃を受けた。悪意がなく普通に貿易しても多くのお金が先進国に残る。先進国として、発展途上国を支援することの難しさを改めて考える機会となった。

また、自国日本における農業のあるべき姿についても問題提起がなされた。自給率の低さは想像以上であった。食料安全保障に対する課題や、生産コストに関する課題など多方面からのお話があったが、第一次産業従事者の高齢化や後継者不足、強い生産者を押え、弱い生産者(や関連組織)を支える体質等の改善、再考は急務だと感じた。その他、ランドラッシュをはじめ、バーチャルウォーター、フードマイレージなど、食の安全・環境保全についてもお話をいただき、今後の日本農業のあるべき姿について考える契機となった。

日本ほど豊かな土地と豊富な水資源に恵まれた国は世界にも類を見ない。本講義を通して、まず自国の農業の現状や未来の方向性について深く考えることが有意義であるとの印象を受けた。生徒たちも、改めて情報収集を行い、提言のテーマについてももう一度時間をかけて見直したいという気持ちが高まった。

### ➡ 6月11日(火) 平成30年度 韓国姉妹校交流 活動報告会開催!

韓国姉妹校交流の活動報告会を6月11日(火)本校の大会議室で行います。韓国ミチュホル外国語高等学校での交流やホストファミリーとの交流などの活動について、参加生徒10名によって発表を行います。自由参加ですので、ぜひ参加してください。

また、今年度の韓国姉妹校交流に興味のある生徒(1年生対象)は参加するようにしてください。

- 日 時： 6月11日(火) 15時40分～17時00分  
場 所： 本校2F大会議室  
対 象： 全学年生徒 希望者  
内 容： ・韓国のホストファミリーとの交流  
・ミチュホル外国語高等学校での交流 他  
申込方法： 申し込みは特にありません。直接会場に来てください。  
使用言語： 日本語



### ➡ 「福島県教育旅行モニターツアー」の案内

#### 東京都進学指導重点校合同企画(日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立高校)

このツアーは、「福島のありのままの姿(光と影)」と、各分野で復興に正面から向き合う「人」に焦点を当てた「学び」のツアーです。震災・原発事故直後から現在に至るまでの復興の歩みや各分野で復興に向け地道な奮闘を続ける人々(ヒューマン)の生の声を高校生の皆さんに感じて頂きます。ツアーを通じて、福島の実況について理解を深めて頂くことはもちろん、震災・原発事故の教訓をこれからの日本・地域や自分自身の未来にどう活かすのかについて考えて頂くことを目的としています。未来を担う高校生の皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

- 日時・場所： 8月7日(水)から8月9日(金)【2泊3日】 福島県  
内 容： 各分野で復興に向けチャレンジする人々との対話・関連施設訪問・ワークショップ  
☆詳しくは後日教室掲示される案内をご覧ください。

☆事前説明会も開催されます。6月15日(土) 17:00～(1時間程度)(於：都立西高校)  
問い合わせは、グローバル事業部まで

## ➡ 6月17日(月) メキシコ大使館文化交流イベントのお知らせ

日 時： 6月17日(月) 16時00分～17時30分  
15時45分通用門集合

場 所： メキシコ大使館内 多目的ホール

対 象： 全学年生徒 希望者(先着50名)

内 容： 横尾咲子氏による紙芝居

申込方法： 保健体育科職員室前にある参加票に  
(ホワイトボードに掲示) 記名する  
定員になり次第締め切ります

近くて遠い、メキシコ大使館を訪問するチャンスです！申し込みはお早めに

問い合わせ：グローバル事業部まで

### 【内容の一部紹介(表記はスペイン語)】

#### Astromisión(金星を求めて)

La aventura de la comisión astronómica mexicana al Japón cuyo fue una causa del establecimiento de la relación diplomática entre México y Japón [1874]. (1874年、メキシコ金星観測団、日本へ旅立つ。日墨外交樹立のきっかけともなった、金星をめぐる大冒険。)

#### El abrazo(ぬくもり)

El rescate humanista del San Francisco, Galeón de la Nueva España que naufragó en las costas de Onjuku[1609]. El primer encuentro entre México y Japón. (1609年、メキシコの船が御宿の漁村で座礁。村民たちの国境を越えた温かい介抱。日本とメキシコの初めての出会い。)

#### Polvo de Oro(金吾物語)

La gesta heroica de Kingo Nonaka [1889-1977], general laureado de la revolución mexicana. (15歳でメキシコに移住し、メキシコ革命に身を投じた野中金吾氏(1889-1977)の激動の生涯。)

☆Guion(台本): Sakiko Yokoo y Espartaco Martínez

### 横尾咲子 氏【略歴】

1979年山形県生まれ。振付家、舞踊家、紙芝居家、文化プロモーター。3児の母。

舞踊を近藤良平氏に、紙芝居を松井エイコ氏に師事。

2006年お茶の水女子大学大学院修了(人文学修士)。同大学院在学中にJICA青年海外協力隊としてメキシコに赴任。

2010年に特定非営利活動法人手をつなぐメキシコと日本を設立し、以来、文化交流プロジェクトの企画運営を行う。

2011年より活動拠点をメキシコに移し、主要な劇場やフェスティバルにて、紙芝居や東洋的身体技法、舞踏の上演とワークショップを実施している。また、メキシコ政府文化庁、国立芸術院、日本国大使館、国際交流基金等の協力を得て、両国の優れた芸術文化の紹介に努める。

2013年～2014年、ミチョアカン州立大学芸術学部講師。現在はミチョアカン演劇センターに勤務し、舞台芸術の上演と指導を行う。



➡ 7月13日(土) レクチャー&ラボツアー「脳の科学の最前線」開催

日時： 7月13日(土) 12時30分～受付開始

場所： 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所  
最寄り駅 JR武蔵野線新小平駅徒歩10分 西部拝島線荻山駅徒歩7分  
西武多摩湖線青梅街道駅徒歩7分

対象： 全学年生徒

内容： 下記参照

申込方法： 6月10日(月)までに保健体育科職員室前(ホワイトボードに掲示)にある参加票に記名する

問い合わせ： グローバル事業部まで

世界脳週間2019イベント  
レクチャー&ラボツアー「脳の科学の最前線」プログラム  
2019年7月13日(土) 国立精神・神経医療研究センター

**研究所3号館1階**

12:30 受付開始  
13:00～13:05 開会のご挨拶(理事長 水澤英洋)  
13:05～13:50 レクチャー  
認知症の克服を目指してー「良い眠り」を通じたアプローチー  
神経研究所 疾病研究第四部 皆川栄子 研究員  
質問・自由討論  
13:50～13:55 ラボツアーの説明

**各研究部にて**

14:00～16:35 ラボツアー  
グループに分かれて、それぞれ下記の研究部のいくつかを巡るツアーです。

①共焦点顕微鏡で覗くミクロな世界

神経研究所 病態生化学研究部

②音に対するびっくり反応で脳の情報処理をみてみよう

神経研究所 疾病研究第三部

③聞こえない超高周波音が脳を快適にするハイパーソニック・エフェクトの体験

神経研究所 疾病研究第七部

④3Dで見る脳の中と神経回路

神経研究所 神経薬理研究部

⑤iPS細胞を用いた筋ジストロフィーの治療研究ーラボで細胞を観察してみようー

神経研究所 遺伝疾患治療研究部

⑥君はトップアスリートになれるか?ー脳の運動学習能力を測ってみようー

神経研究所 モデル動物開発研究部

⑦意識はどこにあるのか???脳の中を観察してみよう!

精神保健研究所 精神薬理研究部

⑧脳が眠りに落ちる時ー脳波で測る眠気評価テスト(MSLT)を体験しようー

精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部

⑨脳機能を光トポグラフィーで見てみよう

病院 臨床検査部

⑩脳波ボーリング体験

脳病態統合イメージングセンター(IBC) 先進脳画像研究部

**研究3号館1階**

16:45～17:10 脳科学クイズ※高得点者1位から5位まで景品があります。  
閉会のご挨拶(神経研究所所長 和田圭司)  
アンケート記入後、解散